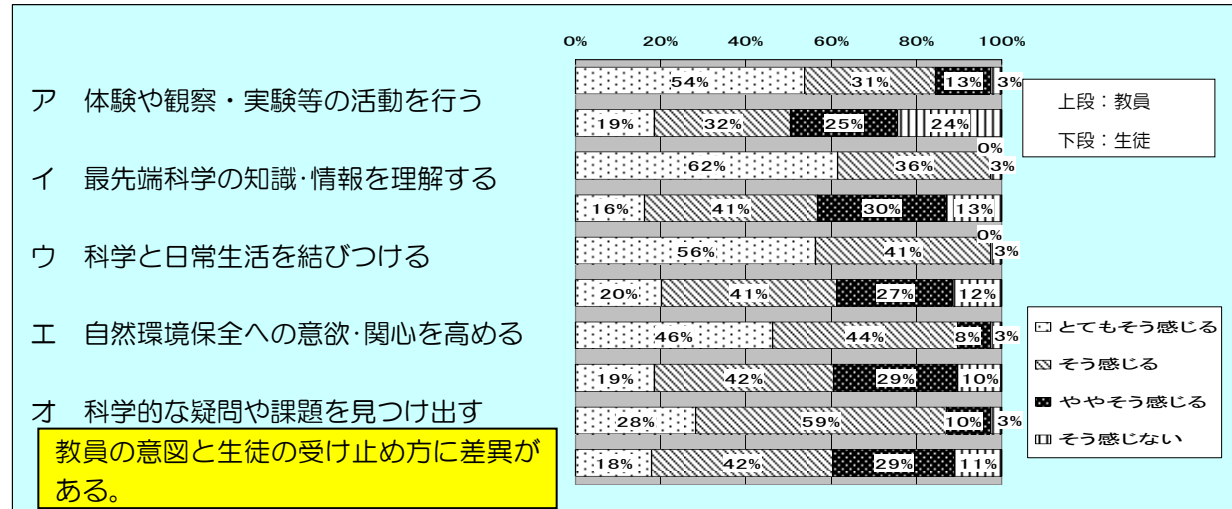


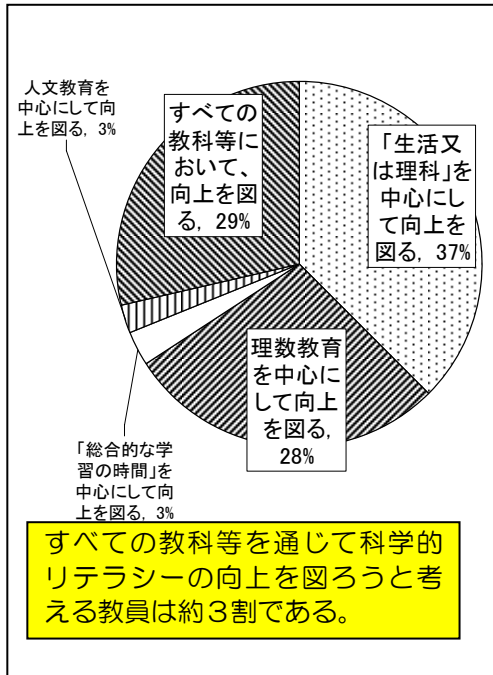
【調査結果概要】

＜中学校・高等学校の理科担当教員が授業に取り入れている科学的リテラシーにかかわる内容等と授業を通して生徒が学んでいると実感していること＞（理科担当教員 39 名、生徒 1669 名）

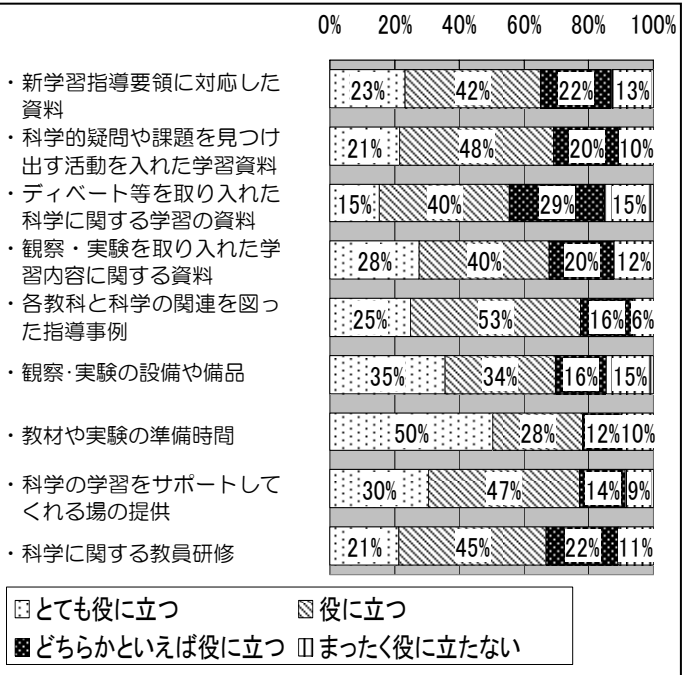


教員の意図と生徒の受け止め方に差異がある。

＜教員が考える科学的リテラシーの向上を図る教科＞（全教科・全校種教員 389 名）



＜科学的リテラシーの向上を図る授業を行うために役立つと思われること＞（全教科・全校種教員 395 名）



【調査研究により明らかになった課題】

- 中学校・高等学校において、理科担当教員が授業に取り入れている科学的リテラシーにかかわる指導内容と生徒が実際に学習を通して感じていることには大きな差がある。
- 中学校・高等学校において、理科以外を指導している教員の方が「科学的な疑問や課題を見つけ出す」「科学と日常生活を結びつける」「自然環境保全への意識・関心を高める」ことを大切に考えていると回答した割合が多い。
- 科学的リテラシーの向上を図る授業を行う上で、教員は各教科と科学との関連を図った指導内容や方法等に関する事例を求めている。また、教材や施設等の支援や教員研修の充実を期待している。
- 科学的リテラシーの向上を図る上で教員の意識は、大きく「すべての教科等を通して」「生活科や理科を中心として」「理数教育を中心にして」に分かれる。